

COVID-19 患者と SARS 患者におけるグルココルチコイド治療と死亡率の関連性の比較 - システマティックレビューとメタアナリシス

[Comparison of Associations between Glucocorticoids Treatment and Mortality in COVID-19 Patients and SARS Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis](#)

Li J, Liao X, Zhou Y, et al.

**[Shock. 2021 Feb 3]-peer reviewed (査読済み)**

(要旨)

◇背景

グルココルチコイド治療による効果は、COVID-19とSARSで異なる可能性がある。

◇方法

本システマティックレビューおよびメタアナリシスでは、2002年から2020年10月7日の研究をMedline, Embase, EBSCO, ScienceDirect, Web of Science, Cochrane Library, ClinicalTrials.gov, ICTRPで検索した。固定効果モデルと変量効果モデルを用いて、COVID-19とSARSについて、それぞれグルココルチコイド治療群と対照群の死亡のリスク比を算出した。

◇結果

臨床試験10報と観察研究71報、計45,935人の患者を特定した。良質なエビデンスにもとづき、グルココルチコイド治療は、COVID-19 [リスク比0.88; 95%信頼区間 (CI) [0.82~0.94];  $I^2=26%$ ] およびSARS (0.48; 95%CI [0.29~0.79];  $I^2=10%$ ) 両方について、全死因死亡率の低下に関連するとともに、全死因死亡率を含むCOVID-19の複合アウトカムの低減 (0.89; 95%CI [0.82~0.98];  $I^2=0%$ ) にも関連することが示された。

サブグループ解析によれば、COVID-19患者で全死因死亡率が有意に低かったのは、重症のARDSを伴う患者(軽症のARDS患者では有意差なし)、低用量グルココルチコイドまたはグルココルチコイドパルス療法使用患者、重篤患者(重症患者では有意差なし)、重篤でかつ高齢の患者(若年患者では有意差なし)、重篤でかつ男性の患者(女性では有意差なし)、グルココルチコイドを早期に使用しなかった患者、デキサメタゾンまたはメチルプレドニゾロンの使用患者、および炎症状態が亢進した患者であった。一方、SARS患者で死亡率が低かったのは、中~高用量のグルココルチコイドの使用患者、重症または重篤な患者、早期にグルココルチコイドを使用した患者、およびメチルプレドニゾロンまたはプレドニゾロンの使用患者であった。

◇結論

グルココルチコイド治療は、COVID-19とSARSの重篤患者で死亡率を低下させた。しかしながら、サブグループ解析で、主に性別と年齢別、グルココルチコイドの至適用量と投与時期により、両疾患で治療効果の違いがみられた。